

図書館だより 7月号

2019. 7. 10
山形南高等学校図書館
(文責:小笠原)

今回の図書委員研修会では、社会学の滝口克典先生をお招きし、新聞を使ったワークショップを行いました

第1回 図書委員研修会 ~2020年の大学入試改革をもとに、これから必要とされる能力について考える~

START!

【先生からの問い】

- Q1. 2020年の大学入試では何がかわるのか?
Q2. なぜ変わるのか?

【図書委員の回答】

- A1. 記述式が増える
英語の4技能が求められる
推薦が増える
A2. 求められる人材が変わってきた
自分で考えられる人が必要
グローバル化が進んだから

「求められる人材が変わった」?
「自分で考えられる人が必要」?
それは何故なのか。

そこまで深く考えてみないと本質は分からない!

- ・グローバル化やIT化が進み、様々な人と繋がれるようになった結果、多様な価値観が流れ込んできた。
- ・これまで経験したことのない少子高齢化/人口減少社会において、既存の「モノづくり」や「社会システム」では様々な社会問題に対応できなくなりつつある。
- ・今後は「答えのない世界」に対応できる能力が必要となる。

「答えのない世界」に必要とされる能力とは、
〈思考力、判断力、表現力〉

その力を養うために、授業が変わり(探求型)、
大学入試も変わっていく。

【実際の入試問題】

「(駅の写真) この写真を見て800字で
あなたの感じることを述べなさい」
(『2020年の大学入試問題』石川一郎/講談社現代新書)

「地元の観光PR動画のシナリオを作る」
(『下り坂をそろそろと下る』平田オリザ/講談社現代新書)



【実際に問題を解いてみよう】

「大学に入学すると、周りには様々な地域出身の人たちがいます。その人たちに地元(山形)を紹介するためのネタを新聞から見つけて、A4の用紙1枚にまとめてください。」
(完成した作品に投票を行い、上位3名を決定します)

GOAL!

【まとめ】

文科省は「生きる力」を

- ①知識・技能
 - ②思考力、判断力、表現力
 - ③主体性、多様性、協調性
- と整理している。

今日は、②思考力、判断力、表現力が求められるワークを中心に行ったが、その他の能力も身につけるためには、自ら様々な情報に常に触れていくことが必要。

新聞だけでなく、本や雑誌、ネット...様々なツールが図書館にはある。せっかく身近に「学び」の道具があるのだから有効活用してほしい。

★1位の作品★

「やまがたワインバル
in 上山温泉」
かみのやま城下町で200種類のワインが楽しめる。城下町の景色とワイングラスは、まさにエキゾチックな雰囲気を醸し出す。歩いてすぐの距離に温泉があるのも魅力。ぜひお越しください。

★2位の作品★

「青空のもと、最上川を歩く小学生。
命育む水を感じる」
南陽の小学生4~6年生が、最上川に沿って20km弱を歩かされ、命を育む水を感じた。山形県には川が身近に感じられる場所が多くあることは確かだが、20km弱、河原をひたすら歩くことは、少し苦行に近いものがあったのではないだろうか。しかし、こういう事を平然とやらせる、そう、それが山形県。

